

カンボジア 2008 年人口センサスの実査

1. はじめに

去る 2008 年 3 月 3 日、カンボジア全土にわたって全人口を調査する人口センサスが実施された。この人口センサスは、1991 年の内戦終了後 2 回目である。我が国は、この人口センサスに対して、国連人口基金 (UNFPA) やドイツ政府と連携して支援を行っている。我が国の支援は、国際協力機構 (JICA) による技術協力プロジェクト「カンボジア政府統計能力向上計画」を通じて実施されており、この人口センサスは、プロジェクトの大きな目標の 1 つである。

なお、このプロジェクトは、カンボジア計画省統計局 (NIS, National Institute of Statistics) を受け入れ機関として、総務省統計局が中心となって、官民合同で支援しているプロジェクトである。このプロジェクトの詳細については、総務省統計局ウェブサイトの次のページを参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/phase2.htm>

本稿では、筆者がこの人口センサスの実査 (Enumeration) に随行し、様々な視察の場面を通して、見聞きしたことや感じ取ったことなどをレポートにしたものである。

2. カンボジア 2008 年人口センサスの概要

まず初めに、カンボジア 2008 年人口センサスと我が国の 2005 年国勢調査を比較して、基本的な相違点について触れておきたい。

- (a) 人口： カンボジアの総人口は推計で 1,470 万人となっており、一方、我が国の総人口は 12,777 万人である。
- (b) 面積： カンボジアの国土の面積は、我が国の約半分である。
- (c) 調査員数： カンボジアは約 3 万人 (教員が中心) が任命された。一方、我が国の調査員数は約 83 万人である。したがって、単純計算すると、カンボジアの調査員は、我が国の調査員に比べて、約 16 倍も広い調査区 (平均で 6km²) を担当した。これは、カンボジアでは、未だ郡部 (Rural) に居住する人口の割合が 85.0% (2004 年) と高く、人口分布の疎らな調査区が多く含まれているためである。
- (d) 調査方法： カンボジアは、調査員が世帯に直接インタビューして、調査員が調査票に記入する他計方式を採用した。これは、カンボジアにおける 15 歳以上人口の識字率が 73.6% (2004 年) と低い、という事情等を考慮しての措置であるが、このことから、カンボジアの調査員の大変さを垣間見ることができる。一方、我が国の調査方法は、世帯が調査票に自分で記入する自計方式を採用している。

カンボジア 2008 年人口センサスの詳細については、総務省統計局ウェブサイトの次のページを参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/census08.htm>

3．カンボジア 2008 年人口センサスの実査関連のスケジュール

この人口センサスは、2008 年 3 月 3 日午前零時を調査時点として行われた。それ以前に多くの準備作業や会議が重ねられたことは勿論であるが、実査の直近のスケジュールのみをみると、指導員・調査員研修、世帯名簿作成及び実査の 3 つを大枠として考えることができる。

まず、指導員・調査員研修は、2 月 11 日から 22 日まで、その後、世帯名簿の作成が 2 月 29 日から 3 月 2 日までの 3 日間、続いて、世帯に直接インタビューすることによって、詳細な調査票に記入する実査が 3 月 3 日から 13 日まで行われた。

カンボジア 2008 年人口センサスの調査票については、総務省統計局ウェブサイトの次のページを参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/documen2.htm>

4．指導員・調査員研修の様子

実査直前の 2 月 11 日から 22 日までの間、この人口センサスのために任命された指導員・調査員に対する研修が 5 日間の日程で、カンボジア全 24 州 (Province) で実施された。前述 (2 .) のような事情から、カンボジア統計局は、この指導員・調査員研修に対して、特に注力し、調査方法の徹底を図っていた。

この指導員・調査員研修の講師は、TOT (Trainer of Training) と呼ばれる人たちで、全 24 州に計 500 名が任命された。この TOT には、カンボジア計画省と関係の深い州計画局 (州政府内局の 1 つ) の職員が、主に任命されていた。また、彼ら TOT に対する研修は、カンボジア統計局職員により、事前に 2 回にわたって実施されていた。

5．世帯名簿作成 (Household Listing) の様子

2 月 29 日から 3 月 2 日までの 3 日間、世帯名簿の作成が実施された。世帯名簿の作成は、調査員が担当する調査区を巡回し、調査票 A (世帯名簿、Form A) に世帯の基本的な情報を記入するという作業である。調査票 A には、住宅に居住する世帯のみが記入されることになっているので、これには、ホームレスや遊牧民等の住所不定者は含まれない。このようにして、世帯名簿が作成され、世帯名簿に記載された世帯が居住する住宅には、目印としてシールが貼られた。この世帯名簿とシールは、この後に続く実査における世帯の把握を容易にするために活用された。

調査員には写真1、2のような調査員Tシャツ、帽子及び鞆が支給された。そして勿論のこと、自分の氏名が記載された調査員証も身につけていた。調査期間中は、街中いたる所で、この調査員ルックを見つけることができた。一見して人口センサスの調査員だとわかる出で立ちをしていることで、「かたり調査」や「なりすまし調査」を防止するとともに、人口センサス自体の広報活動にもつながるといふわけである。ちなみに、胸のロゴにはクメール語で「人口センサスに協力しよう」という意味のことがプリントされているそうである。



写真1 調査員の出で立ち



写真2 調査員用のバッグ

また、調査員には、担当する調査区（EA, Enumeration Area）の地図が配布された。この調査区地図は、カンボジア統計局の職員による手書きの地図である。地方行政区域の境界線については、上位レベルから順に、24州、185郡(District)、1,621Commune及び14,066村(Village)の境界線まで全て電子化を完了したものの、28,635調査区の境界線は未だ手書きである。調査員は、この手書きの地図を基に、調査区の境界線を確認しながら世帯名簿作成を実施し、併せて地図の更新も行った。このことから調査員の大変さを察することができる。



写真3 軒先で世帯名簿に記入する調査員

世帯名簿を作成するために、調査員は、各世帯を順次訪問して、インタビューしながら調査票 A に記入して行き、時には写真 3 のように、壁に向かって調査票 A を記入することもあった。また、各世帯の目立ちやすい場所に白いシールを貼る作業も行った。このシールは、上述のとおり、世帯名簿を作成済みであることを示すとともに世帯番号も記入されているので、続く実査の際には、このシールを目印にして調査員が再度訪れることになっていた。このシールも、人口センサスがいたる所で実施されていることを示す良い目印となった。視察の間も、このシールの有無で、調査員が既に訪れた世帯か否かを見分けることができた。

世帯名簿作成の視察で印象に残ったことは、多くの調査区で調査員同士が、お互いによく協力をしているということであった。写真 4 は、世帯名簿作成が始まった初日の朝のものであるが、本来は別の調査区を担当している調査員たちが集まって、グループで作業をしていた。というのは、調査員の中には今回の 2008 年人口センサスが初めてという人もいたので、経験のある調査員が経験のない調査員を伴って、一連の作業を指導しながら調査しているということであった。



写真 4 初日はグループで活動する調査員たち

そして、この日の午後からは、各自が担当する調査区に戻って調査をするとのことであった。このような自主的な創意工夫は、調査員が人口センサスに対して真剣に取り組んでいることを示すものであった。

こうして調査員たちの地道な努力が積み重ねられて、いよいよ 2008 年人口センサスの調査時点を迎えたのである。

6. 実査の様子

2008年3月3日零時を目前にして、一つのイベントが開催された。Midnight Enumeration と称して、調査が困難なホームレス等の住所不定者に対する調査が行われたのである。

今回のカンボジアの人口センサスは、de facto 主義に基づいて実施された。de facto 主義では、調査時点で「実際にいた場所」を所属する地域として調査するため、ホームレスのような定住していない人は、調査時点の3月3日零時で一斉に調査する必要があった。ちなみに、我が国の国勢調査は、常住地（3か月以上住んでいる場所等）を所属する地域として調査する de jure 主義に基づいて調査されているので、カンボジアとは対照的である。

プノンペン市内の Midnight Enumeration は、主務大臣である計画大臣、計画事務次官、統計局長が参加する大々的なものとして実施された。写真5は、そのときのものである。



写真5 カンボジア計画大臣の実査視察（3月3日午前零時頃）

計画大臣もお揃いの調査員Tシャツを着て、プノンペン市内のいくつかのスラム街を視察した。カンボジア軍の護衛がついていたとはいえ、気さくに調査員や住民に話しかけている姿に少し驚かされた。

視察の間にも、担当の調査員がホームレスの人たちに対して、着々と調査を進めて行く。しかし、一度インタビューが始まると、写真6のように、まるで何かのお祭りが始まったかのように、多くの人々が集まってきて、自分もここに住んでいる、と口々に伝え始めた。彼らは非常に協力的で、調査員に様々な情報を伝えている姿が印象に残った。



写真6 珍しそうに覗き込む住民に囲まれながら調査を続ける調査員

この後 Midnight Enumeration の一団は、外国人旅行者を把握する必要から、市内の有数のホテルの1つに移動し、ホテルの支配人に人口センサスへの協力を要請し、調査票提出の約束をして一連の視察を終えた。

Midnight Enumeration を皮切りに、6 ページにも及ぶ調査票Bのインタビュー調査が、カンボジア全土で一斉に開始された。なにしろ、調査項目が81項目にも及び、一つの世帯の調査に、平均して30～40分くらいの時間がかかる。カンボジアの3月は乾期で、調査には適しているものの、日中は30 を超えることが多く、調査員の苦労は並大抵のものではなかったはずである。

しかし、ここでも調査員は印象に残る工夫を筆者に数多く見せてくれた。



写真7 調査の合間に、適当な場所を見つけて調査票の内容を確認する調査員

写真7のように、多くの調査員が、道々の露天に腰をおろして、調査票を並べている姿を見かけた。暑い日差しを避けて休憩しているものと思って話しかけてみると、違うのである。彼らは、何世帯かの調査を終えると、一旦腰を落ち着けて、内容の自主的なチェックを行っていたのである。調査漏れはないか、記入間違いをしていないか、といったことを、一つ一つ丁寧に確認していた。内容に疑問を抱く箇所があると、別に控えてある電話番号を使って、確認するそうである。また、ある Commune 事務所では、午前中の調査が終わったら事務所に戻ってきて、お互いの調査票の記入状況を互いに見直しし合うということも行っていた。彼らの自主的な創意工夫には感心させられるばかりである。その時に聞いた苦労話として、調査員Tシャツが1人1枚しか配られなかったので、もう3日目の今日は臭い、しかし他は問題ない、といていた調査員の笑顔が心に残った。暑い中本当にお疲れ様でした。

一方、人口センサスの準備期間から実査の期間中、写真8のような人口センサスの横断幕がいたる所に掲げられ、人口センサスは、国を挙げての一大事業として実施された。我が国では、昨今、回収率の低下や、かたり調査など、統計に関する暗い話題が散見されるが、一方、カンボジアでは、人口センサスに関わる人々の真摯な態度には本当に感心させられた。



写真8 Commune 事務所に掲示された人口センサスの横断幕

7. おわりに

現在、カンボジアでは回収された調査票の集計が着々と進められている。きちんとした統計として、カンボジア国民に還元されるまでには、未だ道半ばではあるが、このようにして回収された大切なデータが実を結ぶことを心から期待している。調査員が、汗を流して調査した結果である統計が、カンボジアの発展に寄与する日が近いと思うと、結果の公表が待ち遠しく思う。

最後にもう一度、調査員の方々を始め、この人口センサスの実施に関わったすべての人々に感謝の意を表して、このレポートの結びとする。